

# 将来の災害に備えて

～1人1人ができること～



災害が発生すると水道が・・・

大きな地震などが起きると、水道管が壊れて水が出なくなり、風呂やトイレなどが使えなくなってしまいます。



2011年3月に発生した東日本大震災では、19都道県で約256.7万戸の断水が発生しました（※1）。 ※1 厚生労働省ホームページを参考に作成

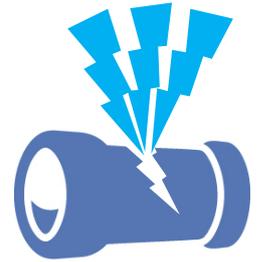
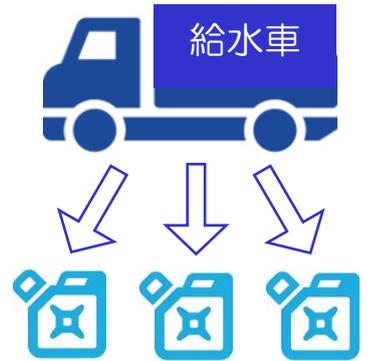


給水・復旧まで時間がかかります

災害によって断水が起こった場合、給水車が駆け付けて学校や公民館などで給水を行います。

また、災害によって破損した水道管の修理・復旧も始まります。

しかし、給水車による給水には限界があり、水道管の復旧工事も時間がかかります。



キーワードは「1人1日3ℓ×3」

給水車による給水や破損した水道管の修理が終わるまでの間も、水は必要不可欠ですが、その分は自分たちで確保しておくことが必要です。

国は災害に対する水の備えとして、「1人1日3ℓの飲料水を3日分」備蓄することを勧めています（※2）。また、大規模災害発生時には、1週間分の飲料水の備蓄が望ましいとされています。

なお、飲料水とは別にトイレを流す時などに使用する生活用水も必要です。お風呂の浴槽に水を溜めておくのも有効な手段です。

**「いざ」という時に備えて、普段の暮らしから常に水を確保するようにしましょう。**

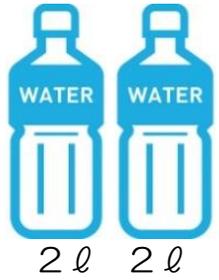
※2 首相官邸ホームページを参考に作成

【全国訓練に関するお問い合わせ先】

日本水道協会 調査部調査課 全国訓練担当  
TEL:03-3264-2359 E-mail:cho-sa@jwwa.or.jp  
所在地:東京都千代田区九段南4-8-9



2ℓ 2ℓ



2ℓ 2ℓ



1ℓ

3日分